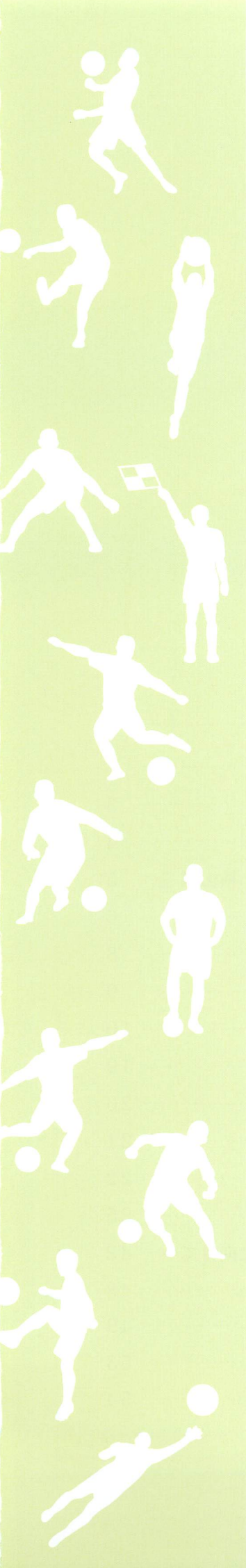


戸田市サッカー協会 創立50周年記念誌



戸田市サッカー協会
平成29年10月



ごあいさつ

戸田市サッカー協会

会長 熊木 照 明

戸田市サッカー協会が、このたび創立50周年という節目を迎えることができましたのも、これまで当協会を支えてくださった御関係の皆様のおかげであり、また、記念式典の開催及び記念誌が発刊できますこと、厚く御礼申し上げます。

50年前、戸田市は人口6万人にも満たないまちでしたが、埼京線の開通などに伴い、現在、人口13万人超と急速に発展してきました。同時に、サッカー人気の高まり、競技人口の増加等から、1971年に開設された惣右衛門公園サッカー場が2010年には市内初となる全面人工芝のグラウンドとなったほか、彩湖・道満グリーンパークサッカー場、荒川水循環センター上部公園などサッカー環境も整えられてきました。その間、1993年にはJリーグ開幕、2002年にはワールドカップ日韓大会が開催されるなど、サッカーは幅広い年代で愛されるスポーツとなりました。当協会においても少年少女、女子から社会人、シニアまでの40チームほどが所属して活動しており、益々の賑わいを見せております。

また、近年では、戸田市出身の選手がプロ選手として、さらには、SAMURAI BLUE・なでしこジャパンに選出されるなど、目覚ましい活躍を見せております。来年にはワールドカップロシア大会、2020年には、東京オリンピックが開催されます。大きな舞台で本市出身の選手の活躍を思い描けることを、いちサッカーファンとして、大いに期待しているところです。

今、戸田市では子どもからシニアまですべての世代で誰もがサッカーを楽しむことができ、それぞれが思い思いに活躍しています。この50年、先人たちの創立からの意志を受け継ぎ、戸田市のサッカーの発展に邁進してまいりましたが、その思いは確実に実を結ぼうとしているのではないかと思います。ひとえに、これまでお力添えをくださったすべての皆様のおかげであると、改めて心から感謝申し上げます。

そして、これから先も、戸田市におけるサッカーの普及及び発展はもちろん、サッカーを通じて活気のあるまちづくり、人づくりなど地域社会に貢献できるよう、地域に根ざした戸田市サッカー協会として、さらなる成長を目指してまいります。

今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

*目次

戸田市サッカー協会会長あいさつ	1
祝辞 戸田市長 神保国男	3
戸田市体育協会会長 永沼逸郎	4
公益財団法人 埼玉県サッカー協会会長 横山謙三	5
戸田市サッカー協会貢献者座談会	6
役員一覧	8
登録チーム一覧表	9
チーム紹介 1 種	10
シニア	19
高体連	20
中体連	21
3 種	22
4 種	25
4 種指導者座談会～これからの戸田市のサッカーに向けて～	42
審判部	48
戸田市サッカー協会 50 年のあゆみ	49
今後の戸田市サッカー協会について	53
編集後記	54



お祝いの言葉

戸田市長 神 保 国 男

戸田市サッカー協会創立50周年、誠におめでとうございます。

戸田市サッカー協会は、創立以来その活動を通じて、本市におけるサッカー競技の普及・振興はもとより、その技術の向上と、サッカーを通じた市民の健康、体力作りに大きな貢献をしておられます。半世紀もの長い間、たゆまぬ発展を続けられ、今日の隆盛を迎えられましたことは、日々競技に励む選手の皆様はもちろん、協会の運営と発展に尽くされました歴代の役員をはじめとした関係者の皆様のご努力の賜物であると、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、貴協会の50年間の活躍には目を見張るものがあり、多くの優れた選手が本市から輩出されました。男子サッカー・女子サッカーともに本市出身の選手が日本代表として選出されるなど、世界を舞台に活躍されていることは周知のとおりでございます。3年後に迫る東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会サッカー競技において、競技会場のピッチに本市出身の選手が立つ姿を楽しみにしております。

また、貴協会のもとでは少年、少女から社会人、シニアまで幅広い年代の方々がサッカーに親しんでおられるとともに、陰で支える審判員や指導者など様々な方々がサッカーに携わっておられます。サッカーを通じて、チームメイトをはじめ、対戦相手、審判員、指導者や家族などサッカーを取り巻く全ての関係を「大切に思うこと」すなわち「リスペクト」することを学び、生涯にわたり成長、ご活躍されることを大いに期待しておりますとともに、貴協会のさらなる躍進を願っております。

終わりに、貴協会の今後益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。





お祝いの言葉

戸田市体育協会

会長 永 沼 逸 郎

戸田市サッカー協会が、創立50周年を迎えられ、ここに記念事業の一環として記念誌を発刊されますことに、心からお祝い申し上げます。

貴協会はサッカーを通して健康の増進や会員相互の親睦を図ることを目的に、50年もの長い間発展を続けられ、今日の隆盛を迎えられましたことは、ひとえに会長さんをはじめ協会運営にご尽力をいただきました関係者の皆様のご努力の賜物と深甚なる敬意を表する次第であります。

さて、貴協会は、今や傘下に小学生から一般まで約600名以上の会員を擁し、定期大会は言うに及ばず、各種年代別など多くの大会が開催され、市民の健康・体力の維持増進に大きな役割を果たしていただいております。今後も、貴協会が本市におけるスポーツ振興のリーダー的存在としての位置づけはますます重要になってくるものと存じます。

スポーツは、心身の発達を促すとともに人間性を豊かに、健康で文化的な生活を営むうえで大切な役割を果たしております。「生涯スポーツ都市」戸田市体育協会といたしましても、スポーツ環境の整備に力を注いでまいり所存でございます。会員の皆様におかれましてもサッカーを通じ、生涯スポーツの充実に更なるご協力をお願い申し上げます。

終わりに、戸田市サッカー協会のますますのご発展をお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。



創立50周年に寄せて

公益財団法人 埼玉県サッカー協会
会長 横山 謙三

平素より、(公財)埼玉県サッカー協会へのご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。このたび、戸田市サッカー協会が創立50周年の節目を迎えられ、記念誌を発行されますことを心よりお祝い申し上げます。

昭和41年10月に戸田市が誕生、翌42年10月に「戸田市蹴球協会」が設立されました。戦後まもない昭和20年頃より戸田中学校で始まった戸田市のサッカーが隆昌し、早い段階で組織化されたことに敬意を表しますとともに、戸田市協会設立後、半世紀に渡って選手育成に取り組まれ、幾多の指導者・審判員を輩出された貴協会のご尽力にあらためて御礼申し上げます。

旧・浦和市（現・さいたま市）で産声を上げた埼玉サッカーの歩みはまもなく110年を迎えます。旧・浦和市に隣接する戸田市では早くも昭和46年にサッカー専用グラウンドとして「惣右衛門サッカー場」が整備されました。以来、各種別の公式大会会場としてこの「惣右衛門サッカー場」は盛んに利用されています。また宇賀神友弥選手（浦和レッズ・戸田南FC出身）が日本代表に選出されるなど、戸田市出身選手がJリーグ・なでしこリーグを頂点とする各種別で活躍の場を広げているのは喜ばしい限りです。

全国的に見れば、50年前といえばサッカーはマイナースポーツでした。今や状況は激変し、サッカーは競技面だけでなく、社会的にも注目を集めるスポーツとなっています。3年後に控えた東京オリンピック・パラリンピック、さらにその先の世界大会を視野に広げて、私ども県協会とともに夢を共有していただければ幸いです。県協会としましては、サッカーが地域社会にしっかりと根を張り、原石の発掘と養成が組織化されるとともに、大人からシニアまで楽しめる生涯スポーツ型社会の実現をめざしています。この理想を具現化されている戸田市サッカー協会のご発展を祈念いたしますとともに、さらなるご理解とご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



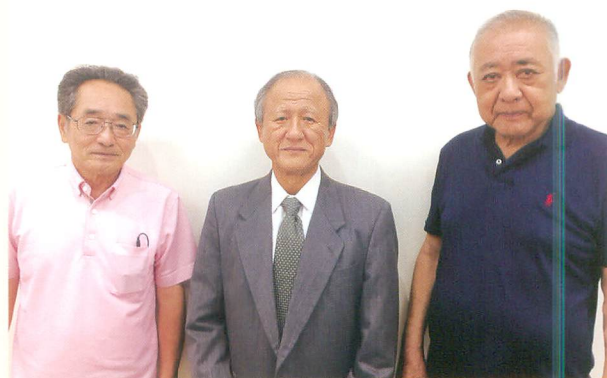
過去～現在～未来の 戸田市サッカーについて

出席者

元日本サッカー協会理事 高橋 明氏
元埼玉県サッカー協会副会長

元戸田市サッカー協会副会長 荘野 禎章氏

元戸田市サッカー協会事務局長 植野 幸治氏
(戸田市サッカー協会創立者)



植野氏

荘野氏

高橋氏

戸田市サッカー協会が創立50周年を迎えました。この50年の間、戸田市のサッカー環境等の変遷がありましたが、良かったこと、苦労したこと等を教えてください。

荘野 戸田市でサッカーを始めた当時は、とにかくグラウンド確保が大変でした。戸田中学校の校庭しかサッカーできる場所がありませんでした。

植野 惣右衛門公園サッカー場ができるまでは本当に苦労しました。

高橋 昭和48年に惣右衛門公園サッカー場ができましたが、当時の惣右衛門公園は、土を流しただけで、至る所に石が転がっていました。拾ってみると大きい石だったりして、ボールが普通に転がるようなグラウンドではなかったんです。

荘野 今は全面人工芝。当時から比べると、サッカー環境がかなり整備されてきたと感じます。

高橋 当時はグラウンドが出来ても、少年用ゴールがありませんでした。

荘野 ゴールを作って、惣右衛門公園まで運んだのですが、丈夫で重すぎて車から降ろすのが大変でした。

高橋 サッカー関係者に声をかけて、惣右衛門公園まで集まってもらって、ゴールを降ろしましたよね。

植野 あれは大作でしたね。

荘野 その後、惣右衛門公園が芝生の植え替えをするときは、またグラウンドが確保できなくなって。そういうときは浦和市（現・さいたま市）にある秋ヶ瀬グラウンドの抽選会に朝早く並んで、グラウンドを確保したりもしました。今はサッカーできる環境が整ってきたように思います。

高橋 惣右衛門公園にはナイター照明がサッカー協会会長のご尽力により設置されましたけど、近隣住民への配慮から利用制限が厳しく、少し使いづらかったです。

荘野 20時までしか使えなかったですよ。日本代表が惣右衛門公園で練習したときも同じでした。

植野 また照明がつくまでに時間がかかりましたよね。

荘野 惣右衛門公園にナイターができてから、その後戸田第一小学校や戸田第二小学校でもナイター照明が設置されて、サッカーができるようになりました。

高橋 新曽中学校、美笹中学校にもできましたね。

荘野 そういうところでサッカー教室を開催したりして、競技人口を増やそうとしましたが、全然が人数集まらなかったんです。当時の子どもたちはみんなサッカーより野球でしたね。

植野 テレビ中継も野球ばかりでしたね。戸田市のサッカーチームも強いわけではありませんでした。

高橋 当時は川口市のチームにまったく勝てなかったです。

荘野 当時はどのチームも勝てなかったですよ。

植野 それでも清水市で草サッカー大会に参加して、みんなで静岡まで遠征したりもしました。

荘野 高円宮殿下が開会挨拶に来るような大きな大会でした。

高橋 たしか準優勝しましたよね。その結果が後日新聞で取り上げられて、全国紙だったかと思います。記事は小さかったけど、そういった細かいところから少しずつ『戸田市』と『サッカー』と周囲にアピールして、競技人口を増やしていこう

と思っていました。

現在の戸田市のサッカーについてはどのように感じますか。

植野 戸田南FC出身の宇賀神選手が、日本代表にも選ばれましたね。本当にすごいことですね。

莊野 女子選手の活躍も目覚ましいです。土光選手や長谷川選手も年代別の日本代表としても活躍しています。本当に戸田市のサッカーが盛り上がってきていると感じます。

高橋 競技人口も増えてきています。50年前にプレーしていた選手が今も現役でプレーしている。そういう意味では選手寿命も延びてきたことも、競技人口が増えた要因の1つですね。

莊野 今は少年からシニア（40代から70代）までの人たちがサッカーを楽しんでいます。本当に素晴らしいことと思います。

高橋 それと指導者の養成はとても重要だと感じます。指導者の養成も色々しましたね。

莊野 植野さんが指導者のための講師を先進市である清水市に依頼して、指導者の講座も開催しましたね。

植野 1泊2日でサッカー指導者のための講座でした。日本サッカー協会から補助金をいただきました。その他にも、元日本代表FWの釜本邦茂さんが少年団サッカー教室にも来てくれたこともありましたね。

莊野 セルジオ越後さんが戸田第二小学校に来て、戸田市選抜チームの監督をしてくれたこともありました。最近では、宇賀神選手がサッカー教室を開催してくれています。子どもたちにとっても、良い影響を与えていると思います。このような企画はたくさんあってもいいですね。

高橋 シニア世代は元気で、海外遠征もしましたね。

植野 中国の開封市にも遠征に行きました。海外とは言わないまでも、他の環境を見たり体験したりするのは、子どもにとってはいい経験になります。

莊野 海外遠征は大変でしたよね。

高橋 平成4年に少年団が中国に遠征に行きました。あのような経験は今後必ず生きてくる。サッカー選手としても、人間としても。少年の遠征で

は、集団で下痢をおこしたりして大変でしたね。

莊野 翌年、シニアチームが中国に遠征しました。

高橋 開封市と試合では、2試合の交流を予定していましたが、1試合目で観衆が帰ってしまいます。開封市の責任者に確認したら「前半と後半で2試合ですよ。」と言われ、啞然としました。また、オーストラリアのニューサウスウェールズ州サッカー協会から、召田戸田市サッカー協会会長にサッカー交流の要請があり、埼玉県サッカー協会と協賛で交流が始まりました。1回目は姉妹都市のリバプール市に遠征しました。その翌年にはリバプール市が来日してくれました。戸田市で歓迎会やホームステイもやりました。

莊野 この企画は召田会長のご尽力、お骨折りにより盛大に開催することができました。ホームステイ等に協力してくれた皆さんに改めて御礼を申し上げます。

戸田市でプレーしている選手たちへ、これまでのご経験からぜひアドバイスをお願いします。

莊野 何事も継続が大事だと改めて感じます。こつこつとやっていくことが大切ですね。少年には、基本をしっかり練習し、自分で考えてプレーすることを学んでほしいですね。そして生涯サッカーを楽しんでいただきたいと思います。

高橋 昔少年団を教えて気付いたのは、指導者がプレーを見せて覚えさせる方法では、同じようなフェイントや技ばかり使うようになり、自分で考えることが少なくなってしまう。自分で判断して、自立できる選手を育ててほしいです。『ドリブルなら』、『フェイントなら』だれにも負けないという選手を育ててほしい。そういった選手が多く育っていけば、日本代表にもつながっていくと思います。

植野 FWも同じようなタイプの選手が多いですよ。海外に行く選手も増えてきたし、今後はハングリーで食欲にゴールを狙うストライカーが、戸田市から出てくることを期待したいですね。そのような選手、良い指導者が育っていくよう、そして今後も多くの選手がサッカーを楽しむために、戸田市サッカーのさらなる発展を期待しております。

◆戸田市サッカー協会役員一覧

No.	役 職	氏 名	担 当
1	顧 問	召 田 均	
2	顧 問	峯 岸 光 夫	
3	参 与	莊 野 禎 章	
4	参 与	高 橋 明	
5	会 長	熊 木 照 明	
6	副 会 長	三 谷 正 幸	
7	副 会 長	伊 野 広 秋	
8	副 会 長	田 中 治 夫	
9	理 事 長	伊 藤 章	全 般
10	副理事長	駒 崎 昌 利	シ ニ ア
11	副理事長	石 田 進 逸	少 年 連
12	副理事長	佐 藤 秀 宣	審 判
13	理 事	池 田 隆 彦	社 会 人
14	理 事	仙 波 敦 雄	社 会 人
15	理 事	敦 賀 裕 之	社 会 人
16	理 事	高 橋 陽 介	フットサル
17	理 事	須 釜 久 之	高 体 連
18	理 事	鈴 木 文 彬	中 体 連
19	理 事	松 岡 栄 一	J r ユース
20	理 事	大 坪 嘉 明	少 年 連
21	理 事	田 中 裕 次	少 年 連
22	理 事	卯 月 泰 之	少 年 連
23	理 事	市 村 卓 也	少 年 連
24	理 事	木 村 光 善	女 子
25	理 事	荒 田 雅 人	女 子
26	理 事	服 部 旭	審 判
27	理 事	柳 田 浩 忠	審 判
28	理 事	松 本 洋 幸	学 識
29	理 事	菅 野 達 也	事 務 局 長
30	監 事	櫻 井 聡	
31	監 事	福 井 智 之	
32	幹 事	生 出 豊	事 務 局
33	幹 事	阿 部 康 平	事 務 局

◆戸田市サッカー協会登録チーム一覧

No.	種 別	チ ャ ム 名
1	第1種	JSC TODA
2	第1種	ほのぼのクラブ
3	第1種	FC.BOWTH
4	第1種	FC M&L
5	第1種	FC.Gainer
6	第1種	FC ZERO
7	第1種	文理FC
8	第1種	キングロンド
9	第1種	FC DIABLO
10	第1種	B.F.P
11	第1種	FC Armada
12	第1種	戸田サッカークラブ
13	第1種	BREAKERS FC
14	第1種	J X
15	第1種	FC.BOWTH LEGENDS
16	第1種	i-SFIDA
17	第1種	MTPC
18	第1種	クラリオンFC
19	第1種	FC GAEA 2017
20	シニア	戸田四十雀サッカークラブ（通称 戸田シニア）
21	第2種	戸田市サッカー高校体育連盟
22	第3種	戸田市サッカー中学校体育連盟
23	第3種	GRAMADO FC TOKINAN
24	第3種	TODA GRAMADO FOOTBALL CLUB
25	第3種	ティブロンフットボールクラブ（FCティブロンU-15）
26	第4種	戸田一サッカー
27	第4種	喜沢サッカー
28	第4種	戸田FC
29	第4種	FC.NIIZO
30	第4種	美谷本FC
31	第4種	FC東'85サッカー
32	第4種	戸田ニサッカー
33	第4種	美女木FC
34	第4種	戸田南FC
35	第4種	戸木南ボンバーズFC
36	第4種	FCクラッキ
37	第4種（クラブU-12）	ティブロンフットボールクラブ
38	第4種（クラブU-12）	戸田シティフットボールクラブ

JSC TODA



基本理念

- ★真剣にサッカーに取り組む
- ★人間的に成長できるチームを作る
- ★生涯サッカーを目指す

今季は市リーグに降格してしまったので1年で県リーグに昇格できるよう頑張ります。

ほのぼのクラブ



基本理念

自由で楽しく且つ強いチームを目指す。
ベンチとピッチに居る選手が一丸となって戦うチーム。

戸田市にある南稜高校サッカー部OBのチームとして立ち上げられ31年目を迎えました。
親子以上の年齢の差も感じさせない位、共にサッカーを楽しむ、サッカー好きが集まっています。

FC. BOWTH



基本理念

練習はしない

目標は県リーグへの復帰とクラブ選手権の再制覇

FC M&L



基本理念

チーム全員で
カバーしあう

です。足りない部分
は全員で補う、全員
サッカーを目指して
います。

チームの主メンバーが30歳以上となりベテランチーム
となってきましたが、まだまだ若いものには負けません。
楽しく勝ちにこだわるサッカーを実践して行きます。

FC. Gainer



基本理念

社会人として
フェアプレーと
マナーのある
チームづくり

いつまでもチームが継続していけるよう
頑張っていきます。
新規の選手募集中。

FC ZERO



基本理念

Enjoy Football

私たちは、サッカーを楽しむということをモットーに
活動しているチームです。幅広い年代が在籍していま
すが、チームの雰囲気は非常によいのでこれからも楽
しんで活動していきます！

文 理 F C



基本理念

サッカーを
生涯スポーツとして、
楽しく続けていくことを
理念としています。

文理F Cは創部25周年の時を刻みました。
チームの母体は、美笹中学校出身者と文理輪転印刷
からのメンバー構成でスタートしました。その後、
後輩や友人で継続しています。今後も理念に基づき、
努力してまいります。

キングロンド



基本理念

「とにかく楽しもう!!」
です。

チームのメンバー大半が30代のチームです。
勝ち負けにはこだわらず楽しくサッカーが出来ればと
思っています。

FC DIABLO



基本理念

「広がれサッカーの和」
サッカーにたずさわる全
ての人々が一生涯楽しい
サッカーができるために。

1993年Jリーグ発足を機に設立、シニア
(O-35、O-45)を合わせて50名超で
活動中、毎週参加自由の公開練習開催中、最
近はJr時代の教え子達も加入! なんか嬉しい。

B. F. P



基本理念

ボールによって
繋がっていた絆を
太く長くしたい。
『Familyの創出』

このBFPというチームはチーム理念の通り幅広い年齢層
でできているチームです。

勝敗にこだわるだけでなく、人として成長できるチーム作
りを目指しています

FC Armada



基本理念

サッカーを楽しむ、
勝利を目指し
全力でプレーする

戸田市サッカー協会創立50周年おめでとうございます。
チームの母体は戸田市役所サッカー部ですが、現在ではその枠にとどまらずサッカーを愛する同志が集い活動しています。

戸田サッカークラブ



基本理念

100年クラブに
向けて次の世代へ
伝統継承

戸田サッカークラブは今年、クラブ創設52年目を迎えました。

戸田市内は勿論、埼玉県内に於いても非常に歴史のあるチームの一員であることの重みと誇りを次の世代に継承していきたいと思っています。

BREAKERS FC



基本理念

プレーを楽しみ、全員が向上することで、勝利を目指すチームを作ること

「勝利とは共に楽しむ仲間に引き込むこと」を理想とし、自分たちがプレーを楽しむことで周囲に波及させ、信頼・協力し合える関係を構築していくことを心がけています。

J X



基本理念

サッカーを楽しみ、チームの為に最後まで一生懸命

若い世代とシニア世代の混成チームです。サッカー好きが世代を超えて一緒にグラウンドでチームワークをモットーに活動を継続しております。

FC. BOWTH LEGENDS



基本理念

個人ファースト

FC. BOWTHで一時代を築くも、年齢には勝てずにポジションを奪われた猛者達が新たな活躍の場を求めて結成したチーム。

i-SFIDA



基本理念

enjoy football
で
一戦必笑

チーム発足18年目です。

【SFIDA】とはイタリア語で挑戦という意味を表し challenge spiritsをモットーに楽しみながら高みを目指しています。

MTPC



基本理念

「果敢に挑戦し、
失敗は全員でカバーする」
というのが
チームのモットー。
チャレンジ&カバー。

前身は県リーグにも所属していた田辺製薬在京サッカー部。
現在の選手も、多くが田辺三菱製薬の社員です。
体力の衰えをハードワークで補い、今後も楽しくサッカー
を続けて行きます。

クラリオン FC



基本理念

サッカーを楽しみ、
その中で
勝利を目指す。

クラリオンFCはクラリオン株式会社の社員をメイン
に構成されたサッカーチームです。サッカーを楽しむ
ことを忘れずに、活動していきたいと思っています。

FC GAEA 2017



基本理念

サッカーができる環境
や仲間への感謝を忘れず、
いくつになっても
一生懸命、
生涯スポーツとして
楽しむ。

各々所属チームでの役割を終えた選手の寄せ集め。
ミスしようが、いい大人なので誰もチームメートを責めない。
今がピークと慰めあいながら、
各自思い思いの自由なサッカーをしています。

シニア

戸田四十雀サッカークラブ (通称 戸田シニア)



基本理念

楽しいサッカーを
モットーに、いつまでも
サッカーを愛し、試合中
に文句を言わないチーム
をめざし、体が続くまで
進んでいきたい。

昭和60年6月2日 設立
戸田市サッカー協会加盟チームからの有志21名で発足
平成4年度より埼玉県シニアサッカー連盟参加
カテゴリー40に登録し年齢とともに、カテゴリー50にも登録し、
リーグ戦、カップ戦に参戦中
平成5年度県民体育大会シニアの部優勝
平成29年度登録者は57名おり、0-40・21名、
0-50・21名、0-60・15名在籍しそれぞれの
カテゴリーで活躍中である。

戸田市サッカー高校体育連盟

埼玉県立南稜高等学校



基本理念

★南稜サッカー部★

【乾坤一擲】

生徒・保護者・指導者三位一体となり、
「強固な組織ディフェンスと突破の
アイデア豊かなサッカーの完成」
を目指して日々練習を頑張り
埼玉県ベスト8、入りを狙います。



基本理念

★南稜女子サッカー部★

【アグレッシブ、クリエイティブ、
ハードワーク】

これを体現できるように日々努力しています。
平成27年度全国高等学校女子サッカー
選手権大会埼玉県大会では2位となり、
関東大会出場。
全国大会出場を目標としています。

戸田市サッカー協会設立50周年
誠におめでとうございます。

戸田市内には戸田翔陽高等学校(旧戸田高等学校)、南稜高等学校が第2種として登録されています。

旧戸田高校には現在の戸田市サッカー協会の基礎を築いてきた先輩達が多数在籍されていました。

現在は戸田翔陽高等学校にサッカー部が無く、南稜高等学校サッカー部が活動しております。

また市内の少女チーム(戸木南ボンバーズ)出身の選手により、同高校に女子サッカー部を作り、共に活動しております。

戸田市サッカー協会の更なる発展と益々の飛躍を祈念し挨拶とさせていただきます。

埼玉県立南稜高等学校 サッカー部監督 須 釜 久 之

女子サッカー部監督 桑 山 秀 家

戸田市サッカー中学校体育連盟

戸田中学校・戸田東中学校・美笹中学校
喜沢中学校・新曽中学校・笹目中学校



基本理念

中体連では、基本的な人間形成の一環として部活動の指導にあたっています。

学校生活を大切に、挨拶や返事、時間を守ること、荷物を綺麗に置くことなど細かな生活面を軸に指導し、その先にあるサッカーの技術向上、勝利の喜び等を目指し活動をしています。

戸田市サッカー協会50周年おめでとうございます。

市内中学校では、平成28年度より戸田東中学校サッカー部が活動を始め、全6校で活動をしています。

秋は新人戦、冬は教育長杯、U-13大会、夏は学校総合体育大会と各大会において県大会進出、さらには関東、全国と進むことを目標に日々市内中学校グラウンドで汗を流しています。近年では埼玉県の中体連選抜に選出される選手も出ており、選手のレベルが上がっています。

GRAMADO FC TOKINAN



2008年に戸木南ボンバーズFCのU-15のチームを立ち上げました。スタート時はなでしこリーグ経験者、関東リーグ経験者などが多数在籍しており、第28回・第29回埼玉県女子サッカー大会に連続優勝し、埼玉県100周年記念大会にも戸木南の名前を刻むことができました。

2013年には関東大会出場を果たし、全国への切符まで手に入れ、大阪府JGREEN堺で全国の強豪チームと練習試合を含め素晴らしい体験をさせていただきました。

U-15でキャプテンを務めた村岡真実選手（オルカ鴨川FC）が今年U-19日本代表に選出されアメリカ遠征メンバーで活躍しました。

戸木南U-15は2017年からGRAMADO FC TOKINANに名称変更して元Jリーガーの荒田雅人監督を迎え、関東大会・全国大会を目指します。

TODA GRAMADO FOOTBALL CLUB



基本理念

選手一人ひとりの能力を
最大限に伸ばし、
豊かな人間性を兼ね備えた
選手に育てます。

◆コンセプト

トータルフットボール「全員攻撃、全員守備」
攻守において、主導権を握り、ボールとスペースを支配する攻撃的なスタイルを目指します。
世界に通じるクリエイティブな選手の育成当たり前のことが当たり前に出来る、状況に応じて最良のプレーができる選手を育成します。

TODA GRAMADO FOOTBALL CLUB.

通称、GRAMADO FC では、誰もが持っている「一生懸命やる才能」を選手から引き出し、“誰にも負けないもの”を持ったサッカー選手の育成、ユース年代に通じる指導をしております。
また、競技能力を伸ばすだけでなく、スポーツマンシップ、フェアプレー、感謝の心の精神を養っていく指導を行っています。

GRAMADO FC TOKINAN（3種レディースチーム）と共に、戸田市のサッカー発展のために尽力していきたいと思っております。

ティブロンフットボールクラブ

(FC ティブロン U-15)



基本理念

当クラブは戸田市を拠点に活動しているサッカークラブです。

子供たちの土台となるベースを築き、
1人1人の長を伸ばし向上させていきます。
ボールを通じて、子どもたちが大きな夢
を持って、戸田市から世界で活躍できる
選手を育て輩出すること、
羽ばたかせていく、という
大きな理念のもと
日々活動しております。

FCティブロンジュニアユースは創設6年目になります。当クラブJr.ユース(中学生クラス)は戸田市及び周辺地域の子供たちが所属しております。公式戦、練習試合、トレーニングを通じて、競技としてのサッカーに日々取り組み、ピッチで起こる勝敗を通じて、勝利した時の喜びや達成感、負けた時の悔しさと新たな向上心、チームスポーツとしての素晴らしさ、集団の中で自分の個性を表現することなど学び、サッカーでボールを通じて知性と教養、そしてハートのある豊かな人間形成を目指しております。今年度は、第4期生が高円宮杯第29回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会において県大会出場を果たしました。今後さらなる高みを目指し、謙虚にチャレンジしていきたいと思ひます。

戸田一サッカー

(スポーツ少年団)



育成方針

1. あいさつのできる団員の育成
【誰にでもきちんとした挨拶が出来る】
2. チームワークの大切さを知る
【失敗を恐れずチャレンジが出来る仲間達】
3. 基礎体力の向上を図る
【プレーを楽しめる自信と成長】
4. 中学年代に向けて基礎技術の習得を目指す
【蹴る】(キック) 【止める】(トラップ)
【運ぶ】(ドリブル)】

当団は創立45年目の少年団で市内でも歴史のある少年サッカーチームです。

戸田一のサッカーは試合の結果(勝ち負け)だけでなく、将来もサッカーを楽しめる基礎を作ることが大切だと考えています。

もちろん個人スキルを向上させる事は必要ですが、チームとして仲間として全員で考え、立ち向かえる子供達にしていきたい。と、考え育成をおこなっています。

『個人技術を磨き 自分で考える 楽しいサッカー』と言ったチームと、卒団したOB・OGがたまには戸田一に行ってみようか? と思い、後輩達の指導が出来るような暖かい団を目指して行きたいと思っています。

興味の有る方は戸田第一小学校で活動していますので、見るだけでは無く一緒に参加してみましよう(子供も大人も大歓迎です)。

喜沢サッカー

(スポーツ少年団)



基本理念

ジュニア育成の基本として「心・技・体」の
バランスを重視し強化を目指します。

そのため次のような指導方針を定めています。

1. コーチや仲間、その他の大人に自ら積極的にあいさつをし、コミュニケーションをとることによって、相手を認める心を育てる。
2. 集団の中で決まりを守り、正しくスポーツすることによって、協調性や忍耐力を養う。
3. 他のチームとの交流を図り、自己の能力を見つめ、より向上しようと努力する態度を養う。
4. サッカーを通じて、走る・跳ぶ・投げるなどの基本的な運動能力を発達させ、体のバランス・体力の向上を図る。
5. 勝利の喜び、上達の喜びなどから自由な発想・想像力を養う。

当団は、喜沢小学校を拠点とし
1973年に創立した戸田市内
でも伝統のあるチームです。

喜沢は、すぐ隣が川口市と蕨市
という戸田市の端に位置する場
所にあります。この地域は、昔
からの戸建てが多く、大規模マ
ンションなどが無いため、子供
が少ないというのが悩みどころ
で、現在の団員数も幼児から6
年生まで合わせて35名と少な
く、大会に出場するのもままな
らない状態です。しかし、その
な中でも熱心な指導者や保護者
の協力もあって、徐々にではあ
りますが、結果がでてきていま
す。

戸田FC

(スポーツ少年団)



基本理念

戸田FCスポーツ少年団は
1974年10月に設立され今年度で
43年目を迎える戸田市内でも
歴史のある少年団です。

現在54名の団員のもと
自分の子供は卒団しましたが
残ってコーチをして頂いてる方々
を中心にサッカーを楽しみながら
練習出来る様に
指導してくれています。

戸田FCはスポーツ少年団としてサッカーを楽しみながら練習して、保護者の方々には極力負担をかけないようにコーチの方々のサポートで頑張ってます。

コーチの皆様及び保護者の方々の応援のお陰で昨年度は4種リーグブロック1位になり全日本少年サッカー南部大会および4種サッカーリーグ選手権大会に出場しました。

本年も現在、残り2試合を残して1位と健闘してます。

卒団生が中学・高校でもサッカーを続けて戸田FCにコーチとして戻って来るまで見守りたいと思っています。

FC. NIIZO

(スポーツ少年団)



基本理念

子供達にサッカーの楽しさは基より、
良い生活習慣を身に付けることを
第一に、チーム活動の中で、
「動く・出来る・解る・関わる」
楽しさを追求していきます。

サッカーする上で関わるもの全てに感謝し、
子供達の状況判断・課題発見・問題解決
に共働する力を養い、結果よりも
成果を大切に活動しています。

創立50周年おめでとうございます。これからも純粋に子供達にはサッカーの楽しさを知り大好きになって欲しいと思います。明るく、楽しく練習し、プレーする喜びと、何かを学ぼうとする意志を持ち、向上心や自主性を産んでいます。また、子供達と大人達の良いコミュニケーションの場として、お互いを尊敬し合う関係を築くのに役に立っています。むしろ大人達の方が無邪気にボールを追いかけて、楽しんでいる様子が印象的です。またいつの日か成長し、このグラウンドに戻り、大人も子供も一緒になって、はしゃぐ声が響き渡り、生き生きとした表情で、サッカーをしていることがF.C.NIIZOの原風景です。

美谷本FC

(スポーツ少年団)



基本理念

少年団の活動を通して、
向上のために努力する子供を育てる
と共に、保護者・指導者相互の理解、
交流を推進し、
「グッドマン・グッドウーマン」を合言葉に、
サッカーの技術の習得と同時に、挨拶や
礼儀を重んじ、自己の責任を果たし、
ルールを守ることの大切さを学ばせ、
自立心を育んでいきます。

戸田市サッカー協会50周年おめでとうございます。

美谷本FCスポーツ少年団は1985年に誕生し、戸田市の西部地区で活動させていただいているスポーツ少年団です。

当団は、協会のもと、市内の子供たちとサッカーをとおして、喜怒哀楽を、ありのままに表現できるような子供を育成し、一步一步歴史を刻んで行きたいと思っております。

今後も戸田市のサッカー発展のために、当団は頑張ります。

FC東'85サッカー

(スポーツ少年団)



基本理念

FC東'85の基本方針として、
中学、高校、又社会人になっても
サッカーを続けてくれるよう、
6年卒業までに基本だけはしっかりと身に
付けるよう指導しています。

又、出来れば後々、
FC東にコーチとして帰ってきて、
子供たちを指導してくれれば
と思います。

近年、少年団でも、技術、戦術等Jリーグにも
劣らない程すばらしくレベルアップしていると思
います。それに伴い、子供各々の技術及びチ
ームとしての戦術向上するがゆえ、勝負にこだ
わってしまう傾向も多々見受けられます。が、
基本、チーム全員で参加、そして結果はともか
く子供達がサッカーをしている時の笑顔を沢山
見れる事が最高です！！

戸田二サッカー

(スポーツ少年団)



基本理念

『挑戦! 失敗の先には必ず成功がある!』
サッカーを通じて何事にも果敢に挑戦
する「チャレンジ精神」を育むことに
力を入れています。「出来ないことがダメ
なことではなく、やらないことがダメなこと」
と指導しております。

戸二FCに関わる全ての方に
楽しんで頂ける環境作りに
チャレンジしていきます。

この度は戸田市サッカー協会50周年を迎えられた事を心よりお慶び申し上げます。協会の皆様には日頃よりサッカー競技の普及、技術の向上と共にサッカー少年の健全な心と身体の育成に多大なるご貢献を頂いている事、感謝申し上げます。当団も2015年に30周年を迎える事が出来ました。これもひとえに戸二FCに関わる皆様のご支援の賜物と感謝しております。戸二FCはサッカー競技の入口としてサッカー少年の育成に邁進して参りますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。末筆ながら、戸田市サッカー協会の益々のご発展と関係各位のご健勝をご祈念させていただきます。

美女木FC

(スポーツ少年団)



基本理念

楽しいサッカー

指導方針

サッカーの楽しさを伝え、子供の自信とやる気を高めることを基本として

1. 自分で「考え」「判断」し、「実践する」能力
2. 社会の一員としての基本態度
3. 仲間同士のコミュニケーションを、サッカーを通して身に付けてもらい、次のステージに送り出します。
クリエイティブでたくましい「人間」の育成を目指します。

戸田市サッカー協会50周年おめでとうございます。

美女木FCスポーツ少年団はサッカーのスポーツ少年団で、戸田市美女木小学校をホームグラウンドにサッカー大好き小学生の少年少女が活動しています。

サッカーという活動を通して、自分達の良いサッカー環境を作ってくれている仲間、親、関わっている人への感謝する気持ちを自然と身につけ、より良い人間形成の場になるようにと考えています。

ご父兄の方々もサッカーの経験あるなしに関わらず、お子さんと一緒にプレーする事が出来ます。現在、女の子の団員も将来なでしこを目指して活動中です。(女子チームでの活動も行っています)

戸田南FC

(スポーツ少年団)



基本理念

『プレ・ゴールデンエイジ(6～8才)』
『ゴールデンエイジ(9～12才)』
と呼ばれている年代の身体的、精神的
特長を考慮しながら、個々の発育
発達段階に応じ最適なタイミングで
必要なことを習得できる環境を整え、
子供達にとっての「楽しいサッカー」
を実現する。

戸田市サッカー協会創立50周年おめでとうございます。長い歴史とともに戸田市のサッカー環境、普及に向けての貢献に深く感謝いたします。協会牽引のもと、戸田南FCも歴史を作り継続する意義を心して歩んで行きたいと思えます。我々が出来る事はサッカーが好きな子供たちに環境を提供し、底辺を広げ永くサッカーに係わり合う選手が一人でも多く参加してもらえればと考えています。その中で特出した子供が育ち、戸田市を代表するような選手になって活躍してもらえることが協会への恩返しになると思います。

戸田市サッカー協会の益々の繁栄を祈念します。
創立50周年誠にありがとうございます。



©J. LEAGUE

浦和レッドダイヤモンズ #3
宇賀神 友弥 選手(日本代表)

戸田市サッカー協会創立50周年、本当におめでとうございます。
私が小学1年生で始めたサッカーのおかげで今、ここに立てていることに
本当に感謝しています。



小学校時代の思い出

私は兄が所属していた戸田南F Cスポーツ少年団に、小学校1年生のときに入りました。チームは市内では1, 2を争うほど強く、常に『勝ちにこだわる』チームでした。当時の白岩監督の練習はとてもハードで、特に苦手なヘディングシュート練習では一人で何十本も打たされた記憶があります。最近でこそ連絡を取ることができますが、今でも連絡があると緊張しますね(笑)。



プロになるまで

浦和レッズジュニアユースのセレクションに運良く合格することができ、中学・高校時代は毎日電車で練習に通っていました。日々サッカーをするのが楽しく、このままプロになれるのかなと何となく思っていたのですが、高校3年生の時にユースからトップチームに昇格できず、大学に進学しました。その時初めて自分がこんなにプロになりたかったんだと気づきました。大学時代に練習試合などで浦和レッズと対戦するときも出場できなくて、とても悔しい思いをしたことを覚えています。



未来に向けて

今、浦和レッズに再び戻ってくることができ、地元・戸田市の近くでプレーできることを本当に嬉しく思っています。これまで私は自分に自信がなかったのですが、昨年、チームでキャプテンマークを巻いた試合があり、色々な人に“目標”や“夢”を与えられる存在なんだとあらためて自覚しました。私を育ててくれた戸田市に住む子どもたちに対して、そんな存在になれたらうれしいと思い、サッカー教室など、触れ合う機会を作り始めています。

私は、サッカーの才能はなかったかもしれませんが、“努力し続ける才能”はあると思っています。努力し続けるために一番大切なことは『夢を持ち続けること』です。一度レッズから離れ、大学でレギュラーになれないときでも、夢を持ち続け努力したことで、夢を実現することができました。皆さんもぜひ、目標や夢を持ち、それを実現するために努力を続けていってください。

私も自分の夢を追いかけるだけでなく、戸田市のサッカーを盛り上げていくためにも頑張っていきたいと思います。



©J. LEAGUE

戸木南ボンバーズFC

(スポーツ少年団)



基本理念

戸木南では、サッカーを生涯続ける
スポーツと考えています。

ゴールデンエイジの小学年代では、
基礎的な技術（ボールを止める、蹴る、運ぶ）
の習得とサッカーを愛する仲間への
挨拶が出来る選手に育つよう
「楽しいサッカー」を
目指しています。

戸木南ボンバーズFCは今年で創立25周年となりました。戸田市の女子サッカーは「戸田市サッカー協会20周年誌」に紹介されている戸田二サッカー少年団のお母さんを中心に会社員、女子大生などが集まり始めました。1986年に結成し、戸田の女子サッカーのルーツとなったチームです。

少年団の中にも女子選手が少しずつ増えていく中、植野幸治元理事と私(田中)が中心となり、戸田市サッカー協会が惣右衛門サッカー場で女子サッカー教室を開催しました。年齢制限なしの教室から4チーム発足の話が出て、戸田ガールズー戸田コスモスを結成したことが戸木南ボンバーズFCの始まりでした。



このメンバーの中から早くも1994年日本リーグ（現なでしこリーグ）に浦和レディースFCの一員として仙波奈津子選手（戸田中3年）、氏家幸子選手（美笹中3年）、広瀬清美選手（笹目中3年）、斉藤菜穂子選手（喜沢中1年）の4名が参戦しました。特に斉藤選手はこの年日本リーグで2得点を挙げ、大変注目されました。

以後多くのOGが戸木南から次の年代へとステップアップしていきました。ヤングなでしこに16歳でフル出場した土光真代選手、現在なでしこジャパンに定着した長谷川唯選手をはじめ、各年代の日本代表で活躍している選手を多く輩出していることを誇りに思っています。また第25回全日本高等学校女子サッカー選手権で優勝した十文字高校には源間葉月選手、梶井風薫選手、浅井真琴選手がいます。

先日の第22回全日本ユース（U-15）サッカー選手権で優勝した浦和レッズレディースジュニアユースにもOGの島崎結希選手、平中響乃選手、新澤そら選手、竹田真菜選手が出場しています。

戸木南の練習にはOGたちも来て一緒にゲームをしてくれます。女子の試合はフェアで面白く気持ちのいいサッカーをします。ぜひご覧になって下さい。応援したい気持ちに必ずなりますから！



©TOKYO VERDY

日テレ・ベレーザ #4 土光 真代 選手

戸田市サッカー協会が創立50周年を迎え、本当におめでとうございます。2009年に初めて日本女子代表チーム（U-14）に入り、2012年にU-20ワールドカップで3位となれたことは、戸田南FCの卯月泰之団長や戸木南ボンバーズ田中治夫代表をはじめとした多くの熱意ある指導者の皆様のおかげだと本当に感謝しています。私が育った戸田市に恩返しできることは、私自身ががんばっていくことだと思いますので、これからも応援よろしくお願い致します。



©TOKYO VERDY

日テレ・ベレーザ #14 長谷川 唯 選手

戸田市サッカー協会、創立50周年おめでとうございます。私が小学校1年のときに戸田南FCに入団してから、戸木南ボンバーズを経て、これまで、戸田市では多くの方にお世話になってきました。2014年にU-17女子ワールドカップで優勝することができたのも、皆さんから教わってきたことを大切にしながら、日々練習に励んだ結果だと思っています。戸田市でサッカーをする少年少女の皆さんが、卯月さんや田中さんをはじめとした戸田市の指導者の方々に教わり、成長し、一緒にプレーできることを楽しみにしています。

FCクラッキ

(スポーツ少年団)



基本理念

CRAQUE (クラッキ) とは、
ポルトガル語で
「サッカーがとてもうまい選手」
を意味します。
特に素晴らしい特別な選手だけに
つけられる呼び名です。
FCクラッキというクラブ名には、
そんな子どもをたくさん育てたい
という願いが込められています。

サッカーの楽しさを知り、サッカーがうまくなることは大きな目的ですが、それと同時にサッカーを通して様々なことも一緒に学ぶ場になればと思います。そのため、FCクラッキは、クラブの場が子どもにとって「豊かな人間形成の第一歩である」という事を指導方針の根底に置くこととします。クラブに関わる全ての方々のサポートをいただきながら前進していきたいと願っています。サッカーボールと情熱を持って！今後ともよろしくお願いします。

ティブロンフットボールクラブ

(クラブU-12)



基本理念

当クラブは戸田市を拠点に活動しているサッカークラブです。

子供たちの土台となるベースを築き、1人1人の長を伸ばし向上させていきます。

ボールを通じて、子どもたちが大きな夢を持って、戸田市から世界で活躍できる

選手を育て輩出すること、
羽ばたかせていく、という

大きな理念のもと
日々活動しております。

FCティブロンジュニアチームは創設3年目になります。

主に4つの育成コンセプトを軸に日々サッカーに取り組んでいます。

- ①物事に一生懸命取り組める環境の創出
- ②育成一貫指導においてコーチの共通理解の重要性
- ③個性ある豊かな人間形成とフェアプレー精神
- ④地域と相互協力と貢献

当クラブの活動において地域の方々と良好な関係を築き、努めていくことが、戸田市のサッカー人口の増加、サッカー競技発展の礎となると考えております。地域で愛され地域に貢献する、相互の協力あるクラブを目指して日々精進しています。

戸田シティフットボールクラブ

(クラブU-12)



基本理念

チームワークと個の育成をミックスし
どんな相手にも向かっていく
元気なクラブチームです。

《蹴る・止める・運ぶ》

この基礎技術向上を図ると共に
チームプレイを通じ協調性を養い
サッカーを楽しむことを
目的としています。

戸田市サッカー協会創立50周年、おめでとうございます。

当チームは小学生、幼稚園生を対象に創立したクラブチームで、創立5年目に入りました。

戸田市西部で、少人数ながら、現役でサッカーを続けている若いコーチ達が、中学、高校に向けて、基礎を中心に指導しています。

まだまだ人数が少なく、実績を残せていませんが、若いコーチ達と選手達と、一步一步成長して行けるチームになり、地元に貢献したいと思います。

戸田市の4種から近未来を望む



座談会の様子

出席者



石田 進 逸

戸田市少年サッカー連盟 会長
戸田市サッカー協会副理事長



卯月 泰之

戸田市少年サッカー連盟 副会長
戸田南FC代表
戸田市サッカー協会理事



柳 田 浩 忠

戸田市少年サッカー連盟 審判部長
戸田市サッカー協会理事



田 中 裕 次

戸田市少年サッカー連盟 育成部長
FC NIIZO代表
戸田市サッカー協会理事

司 会



荒 川 裕 治

公益財団法人埼玉県サッカー協会
理事・広報委員長
特定非営利活動法人さいたまサッカークラブ 理事長
(新曾在住)

現状、そして課題

荒川 いつもお世話になっております。この度は戸田市サッカー協会創立50周年、おめでとうございます。今日は戸田市のサッカー、子どもたちの未来に向けた話をさせていただき、何らかの方向性を示し、それが次への大きな一歩に繋がれば幸いです。まずは皆さんが感じている現状をお聞かせください。その現状というか、課題をベースに

これからの5年後、10年後のことを語っていきましょう。よろしくお願いします。では石田会長からお願いします。

石田 まずは子どもたちを見て思うことですが、20年前と比べると選手個々の技術能力はかなり高くなっていると思います。その半面、プレーはうまいけれど、試合となるとなかなか勝てない、勝ち切れないようです。そこを大きな課題に感じています。

サッカーの環境は、周辺地域と比較すると戸田市は恵まれているほうだと思います。惣右衛門公園サッカー場があり、彩湖・道満グラウンドがあり、荒川水循環センター上部公園もできました。またスポーツセンターもあります。でも改善の余地はあると思います。活動内容では市外のチームとの交流がもっともっと必要だと考えています。

一番重要なことは、子どもたちの指導・育成に直接関わる人たちの「技術力」を上げないといけませんね。サッカー環境の整備向上と指導者のレベルアップが課題です。審判も同じでしょうか。

卯月 ほとんど石田会長におっしゃっていただきましたが、強いて言えば、サッカー環境の向上を挙げたいと思います。現実的に、私たちの少年団にはトレーニングする場所がない、グラウンドがない、土曜日しか活動できる場所が確保されていない、日曜日は遠征に行かないと練習もできない……。確かに戸田市におけるサッカー環境は整備されてきているとは思いますが、一団体の責任者として考えると、まだまだ不足していると思います。遠征が多いと保護者の負担も大きいというのが正直なところですね。戸田市全体の問題として、サッカーだけでなく、スポーツにとって良い環境が整っていけばいいと思います。

田中 幼少期、私自身FC NIIZOにいましたが、当時に比べるとサッカーが本当に盛んになってきたと思っています。育成部長としてみても、子どもたちの技術力は上がっていると思いますが、「人間力」が高い選手が少ないように感じています。

具体的に言えば、自ら考え行動する選手が少ない、指導者から言われたことをやっているだけ、ボールを持っても創造性を感じさせてくれる選手が少ないですね。そこをどうするのか、課題ですね。

柳田 審判側から見ると、指導者は対選手ですが、審判は指導者やチーム関係者と会話をする、時には指導をします。サッカーは、少年少女でも大人でも、規則は同じです。少年少女の担当審判から始まって、どの年代の試合でもしっかり判断し、笛が吹くことのできる審判を育成したいと考えています。各チームには、3級審判を1人以上帯同してもらうことを勧めています。審判部としては、皆さんに高望みはしませんし、3級、2級を持っている人が偉いというわけではありませんが、一人でも経験を積んだ審判が増えていければ幸いです。これを育成に置き換えると、今の子供たちに「将来審判になりたい」と思ってくれるようなお手本となる審判員を育成していきたいですね。サッカーに関わっていく上で、審判が選択肢の一つとなるように、そのような将来像をもって、活動しています。

「ファンタジスタ」がいない

荒川 皆さん、ありがとうございました。では「選手」の話から進めていきましょうか。

田中 提案ですが、年代を超えた「トレセン」があってもいいと思っています。小学生もいて、中学生もいて、高校生もいるような環境が欲しいですね。静岡県では、やっていると聞いています。審判も大人に混じって中学生、高校生が学べる環境があるといいと思います。

荒川 静岡県のトレセンの事例は、清水で行っている「スペシャルトレセン」のことですね。少数で行いますが、上の年代の子どもは下の年代の子どもの面倒をみて、下の子どもは間近でいいお手本を見ることができるという仕組みです。昔の読売クラブは、よみうりランドの同じグラウンドでジュニアユース、ユース、トップが時間帯を変えて練習していました。その合間にラモスさん（瑠偉氏）とかトップの選手たちがユースの子どもたちと遊ぶことで、目標となり刺激となったもので

す。そういうイメージですよね？

審判に関しては、S F A（埼玉県サッカー協会）としてもユース審判育成に力を入れており、先日も宿泊研修会も開催しました。審判も世界に通じる道があること知ることは大事なことだと思います。

そういう「夢」のあるような話、いいですね。

田中 Jリーグできて25年。20年前は戸田市出身のJリーガーはゼロでした。今は、宇賀神友弥選手がJリーガーになり、かつ日本代表にも選出されました。振り返れば、これまでも戸田からも多くの人材がユース年代で活躍してくれたのですが。

荒川 具体的な選手像って、ありますか？

石田 うーん、今は「おりこうさん」が多くて、指導者から言われたことはできるのですが、逆に指導者の言うことを聞かないような選手かな（笑）。

柳田 やはり独創性がある選手がいないですね。魅力がないというか……。

田中 一時流行った「ファンタジスタ」っていう選手がいませんね。今の子たちからは感じられる選手はなかなかいません。

石田 以前はガキ大将みたいな選手いたものですが、今は……同じようなタイプの子たちばかり。昔は、指導者が言ったことと違うことを平気でやっている選手がいたものです。

卯月 今よりも昔は指導そのものが大雑把でしたからね。昔がよかったのかどうか分かりませんが、今の指導は間違っていないとは思いますが、ただ、押しつけになっていないかと自問自答するところですね。もしかしたら「(点を)取ってこい！」の一言でいいんじゃないかなとも思います。

柳田 教えすぎかな。

石田 指導者の「型」にはめ込むというか、指導者自身が「複数の型を持っていない」のではないのでしょうか。

田中 創造性のある「ファンタジスタ」になるような選手を輩出したいですね。

柳田 そういえば、ジュニアユースの試合で、あるチームが音楽を流して踊りながらウォーミングアップして、ノリノリの子がいたんですよ。試合になると、その選手がキレキレのドリブルをして

いたのに驚きました。のびのびさせているチームもあります。選手はもっとイマジネーションを持ってプレーしてほしいものです。

卯月 とにかくトリッキーさがないですね。昔は「好きな選手を真似しなさい」と言っていたものですが、今は指導者の言うことをそのまま聞いてしまう子どもが多いですね。

石田 危険ですね。選手って勝手に育つ部分と、ある程度教えないといけない部分の両面があります。昔は勝手に育つ部分が多かったのが、今はただ言われた練習をこなすというだけ。自主的にボールを触る習慣がないのが残念です。

卯月 「習い事」なんですよ、今のサッカーは。

荒川 子どもたちの人間性の成長を促すために、いろいろなイベントを設けて、サッカー以外の経験をさせることが大事だと思っています。サッカーも生活そのものも全部つながっているのですから。そんな中、少年団は「サッカー以外」を伝える環境があると思います。繰り返しになりますが、日頃の生活そのものがサッカーにおいても、出てくるものです。指導者には生活指導も求められていますね。

石田 少年団のいいところは、クラブチームと違って親子の交流や違う学年との交流、地域との交流もあることです。戸田に来て30年以上経ちますが、サッカー（少年団）に関わるまでは、なかなか地域の中に入れなかったものです。それが、子どもがサッカーを始めたことによって、地域との交流ができました。少年団であることの良さは、地域の中にあることだと思っています。

荒川 子どもにとっても、親にとってもということですね。

田中 いろいろな地域から戸田市に転入してくる子が多いですね。

柳田 そのような土壌がある中で、サッカーだけではなく、子供たちにいろいろな経験させたいものです。それが、少年団が出せる「良さ」だと思います。

石田 クラブチームと少年団を比べる必要はないですね。少年団には少年団の良さがあります。

柳田 そうですね。いろいろなチームが増えて、多様化してきています。また、トップレベルの選手が近くにいる地域でもありますね。

他世代との交流

石田 実際にトッププロと話ができる、彼らのプレーを間近で見られるような環境があるといいですね。昨年開催した宇賀神友弥選手のサッカー教室では、一緒にプレーし、目の前でプレーを披露してくれました。子どもたちの目の輝きが違いました。子どもたちにとっては、いい経験になったと思います。

田中 漠然としていた夢が、目の前に現実としていてくれるのです。目指している中で、現実味が増していくいい機会でしたね。

石田 今年の五月に「戸田ガールズひろば」を開催したところ、今年の高専女子選手権で優勝した弦間葉月さん（F C. クラッキ／戸木南ボンバーズ F C→十文字高校→現 十文字大学）が遊びに来てくれました。子どもたちと一緒にプレーしてくれて、参加した子供たちがとても喜んだと聞いています。上のカテゴリで活躍している選手との交流が増えてくるといいですね。

柳田 荒川さんが来てくれているからではありませんが、さいたま S C のように関東リーグ1部でやっているチームも近くにあるんです。本当に高いレベルでやっていますし、審判も1級、2級を目指す人たちが担当しています。子どもたちに、そういう選手や試合を近くで見せてあげたいですね。Jリーグとまではいかないまでも、そういう選手が近くにいるというのは、いい環境だと思います。

卯月 さいたま S C との交流も持ちたいですね。

石田 さいたま S C には「キャラバン」やサッカークリニックをやってもらうなど、お互いメリットがありますからね。さらに、次のステップにつながっていくと思います。

荒川 皆さん、ありがとうございます。

田中 今、さいたま S C に戸田市出身選手が3人います。

荒川 田中さんのところから来てくれた日高（貴

裕。FC NIIZO～新曽中学校～流通経済大学付属柏高校)、戸田FCの中村信彦代表の御子息である中村(陵。戸田FC～新曽中学校～大宮南高校)の2人に、出たり入ったりしてますが今年はタイの2部リーグRayongFC(ラヨーン)でプレーしている杉下(聖哉。FCクラッキ～ロクFC～鹿島学園高校～尚美学園大学)のことですね。

石田 埼玉には浦和レッズや大宮アルディージャもありますが、もっと身近にいる選手の方が目標にしやすいですね。

柳田 さいたまSCはJリーガーよりも身近ですよ。子どもたちの目標になる選手が近くにいて、その選手を間近に見られるというのはいいことです。南稜高校の小川先生(駿)もさいたまSCですよ？

荒川 小川は今年からお世話になっています。また南稜高校は、前監督の柴崎さん(康之氏)も現監督の須釜さん(久之氏)もクラブのOBです。

卯月 さいたまSCをもっと告知していかないといけませんね(笑)。

田中 小学校低学年だとJの選手名は覚えられませんからね。全員、サッカーがうまいお兄さんたちで一緒に扱いになります(笑)。

石田 子どもたちもそうですが、指導者も違うカテゴリを見てほしいですね。そこから4種をどうするのか考えてほしいと思います。指導者にさいたまSCの試合を見てもらいたい。「小学校6年生がゴール」と勘違いしている指導者がいるように思いますね。今、ベンチに座っている子どもたちも中学に入ってから伸びるのですから。

田中 子どもたちというのは4号球を使って、小さなピッチでプレーしていますが、あれはサッカーの「予習」をしているようなものだと思うのです。海外だと最初から5号球ですからね。

柳田 海外の指導現場では、試合中でも指導者がピッチに入っていって指導しています。

卯月 練習試合ではやったことがあります、公式戦ではないですね。

柳田 この年代だったら、個人的にはアリだと思いますね。

石田 ハーフタイムや試合が終わってから試合中

の話をして覚えていませんからね(笑)。その場面その場面で指導してあげるほうがいいですよ。

柳田 審判も一緒ですよ。

卯月 そういえば、審判しながら指導もしていましたね。

石田 今はやりませんね。昔はやっていましたが。

田中 ミニゲームをやっていて、フリーズをかけますが、話が長い指導者が多い(苦笑)。覚えてきたことを伝えたいのかもしれませんが、考えてほしいと思う場面がしばしばあります。一回一回止めても逆効果です。子どもが何に集中しているのか、何に焦点を当てるのかを明確にしないといけないですね。

柳田 とにかく試合をこなしていけばいいという風潮になっているのもあります。

石田 それに、プレーをなるべく止めちゃいけないみたいな、変な先入観があるんですかね。

荒川 そういことができるのが、田中さんがおっしゃる「トレセン」ではないでしょうか。多世代が集まって、チームの中ではできないことにチャレンジするのです。

石田 それを見た指導者がチームに持ち帰って還元できればいいですね。

田中 子どもたち個々のストロングポイントを見て伸ばす、というのがわからない指導者がまだ多いのかもしれない。

石田 子どもと一緒に卒団してしまう指導者も多いのですが、残ってくれる指導者がどうチームに影響を与えていくのかも考えていきたいものです。そのためには、カテゴリの壁を超えた交流が必要ですが、ここの壁が意外に厚い(苦笑)。市内にもクラブチーム(GRAMADO FCなど)がありますから、指導者育成に力を貸してほしいとお願いしているところです。プロの指導者から学べるものは多いです、その学びを各チームに落とし込んでいければ、もっと良い指導者が育っていくと思いますね。理想を忘れないで、日々継続することが大事です。

荒川 地域のニーズや子どもたちのニーズを踏まえた「指針」が必要ではないでしょうか。名称はともかく「トレセン」という形で少数を集めて、

★戸田市少年サッカー連盟指導者座談会

磨いていく。そこにいろいろな大人が関わっていくという流れができればいいと思うのです。

サッカー環境の向上

石田 そう考えていくと、やはり物理的な障害がありますね。東京近郊の中では恵まれたところかもしれないが、「場所」がありません。

柳田 欲を言えばJFLの試合ができる環境があるといいですね。繰り返しになりますが、いい試合を間近で見られる環境があると、子供たちにもいい影響を与えます。

田中 そのとおりだと思いますね。戸田競艇場近くの荒川河川敷のグラウンドで昔はよく試合をしましたが、今は使えないのでしょうか。あと、荒川水循環センター上部公園も今以上に使えるようになるといいですね。

卯月 使わないとグラウンドはダメになりますね。板橋側の荒川土手は、野球場が並んでいるのがきれいですよね。戸田側でもできないのでしょうか。

田中 JFLのチームが試合できるとなると、スタンドのあるサッカー場が必要ですね。市内にせめて1つスタンドのあるサッカー場が欲しいものです。

荒川 JFLの試合を行うには5,000人以上の観客席が必要です。

柳田 野球は照明のある野球場がありますが、サッカーは学校の校庭しか照明がついていません。

荒川 惣右衛門公園サッカー場は照明設備があっても、使用できないと聞いています。

柳田 そうなんです。長く使うことができていません。惣右衛門公園サッカー場はいい人工芝を張ってもらっていますが、スタンドがありませんからね。陸上競技場と一緒にでもいいので、欲しいですね。

卯月 スタンドがあるといいですよ。防災の面で考えても拠点となるなど有効ですからね。

石田 こういった声は一時的ではなく、言い続けなければいけません。市にだけではなく、埼玉県サッカー協会や日本サッカー協会にも声を上げ続けたいといけませんね。

田中 また、個々の助成金も必要になってくるでしょう。行政と民間が一緒になって動かないとい

けないと思います。

荒川 将来に向けて、いい展開ですね。そこで以前からお話ししている持論を展開させてもらってもよろしいですか？ 戸田市のスポーツセンターの300mトラックのあるグラウンドと隣接する戸田翔陽高校のグラウンドを一緒にして考えるのです。その間にある道路は外してほしいものです。そこに陸上競技場にもなるサッカー場とサブグラウンドをつくれるといいと考えています。もちろん観客席を設けていただき、市外県外からも観客に来てもらう空間をつくるのです。

現在の戸田翔陽高校はパレットスクールで、勉強をやりながらもスポーツもできる環境にあります。しかし、パレットスクールになったことで、戸田市民と幾分距離があるのかなと思うのです。

田中 今は少し閉鎖的な感じもしますね。地域と学校側が交流していけばいいと思うのですが。

荒川 そうなんです。県立高校ではありますが、戸田市にある財産なんですよ。もっと知ってもらい、市民の皆さんに進学の際の選択肢の一つにしてもらえればいいと思うのです。

そこで戸田市です。戸田市がどうフォローするか。戸田市にある財産をどう活用していくか。さらにはスポーツをどう活性化していくか。戸田市は両面を考えていかないといけないと思うんですね。健康面を考えて、市民の皆さんにこれからどうスポーツを楽しんでもらうのか、そのためには今ある施設をどうするのが有効なのかを真剣に考える時期なのです。戸田市の象徴となるものがあるといいと思います。

田中 スポーツセンターは建設された当時、「東日本一」とか言われて、開所式には天皇・皇后両陛下もいらっしゃったと記憶しています。確か、小旗を振りましたからね。

荒川 素晴らしいアクセスと敷地面積ですよ。

石田 戸田市にとっては、東京オリンピック2020に関連してボートコースが話題となっていますが、他にも象徴となるものがあるいいと思うのです。ここで話をしているサッカー場に限らず、子どもたちが大人になって戸田に戻ってきたときに「あ

あ、戸田に戻ってきたな」と“故郷”を感じさせる施設があるといいですね。できれば自然をうまく生かしながらサッカー場ができるといいですし、彩湖・道満グリーンパークも上手く使えるといいですね。

柳田 今は埼玉県ではワールドカップを控えて、ラグビーを盛り上げる傾向ありますが、いろいろなスポーツが盛り上がっていけばいいと思うんです。惣右衛門公園サッカー場でラクロスをやっていたりしていますが、もっと広げられると思います。スポーツの受け皿がもっと広がっていくといいですし、環境が整っていけば、それに見合う選手が育っていくものですし、更に触れられるものが多くなるのです。

石田 空いていた土地にはマンションも多く建設されましたから、自由になる土地は多くありません。やはり既存のものをどううまく活用していくかが課題ですね。

田中 大きな企業が市外に出て行っていますね。そういう土地とかうまく活用できたらいいのですが。

石田 前向きに具体的な話をしていかないと、進んでいきませんよね。

荒川 そうなんですよ、「思い」を発信していかないと必要性そのものが誰にも伝わらないのです。

田中 そうですね、訴えていかないとわからないものです。夢のような話ですが、戸田市のスポーツが盛んになって、市で抽選しないと市民になれないくらいいい街にしてほしいと思います(笑)。そういう街づくりをしてほしいものです。さいたま市を見ると、埼玉スタジアム周辺が徐々に栄えてきています。行政と一緒に、動いていかないと発展していきませんね。

荒川 先日、埼玉スタジアムを建設するのにいくらかかったのかという話になりましたが、かなりの金額でした。しかし今となれば、世界のサッカーファンから「埼玉には埼玉スタジアムがある」と言ってもらっています。世界に存在を示し、誰もが誇れるものがある、ということを考えても、埼玉スタジアムを建設した価値があるのです。

田中 何年前かにドイツから来た留学生も埼玉ス

タジアムがあることを知っていました。昔の東京オリンピックをテレビを見て、戸田にボートコースがあることを知ったという話も聞きました。スポーツを通じて、言葉がわからなくても、交流ができるのです。戸田ボートコースがあるから、戸田を知ってもらえるのですから。

石田 次の戸田の財産をどう築いていくか、ですね。サッカーを1つの柱にして、次の財産を築いていく。それには積極的に動かないといけないということです。

夢は尽きませんが、子どもたちに関わることです。種別の壁を超えた取り組み、指導者・審判の育成も急務です。これらを活性化するための設備、環境が必要であり、そのためには声を上げていくということでしょうか。

田中 我々が盛り上げていかないとはいけませんね。

柳田 サッカーが楽しければ、ずっとサッカーに関わってもらえるのです。子どもからシニアまで、ずっと楽しめる環境があるといいですね。私自身、生涯スポーツとして、サッカーを楽しみたいですし、誰もが50歳、60歳になっても安全に楽しめる環境があると思います。

卯月 サッカーは地域スポーツです。次の受け入れ先、さらにその先と地域全体で子どもを見守る環境を整えていかなくてはならないと考えています。少年団で、中学校で、ジュニアユースのクラブでそれぞれ確立できる環境が整っていくといいですね。少年団で活躍してくれて、クラブチームに行ってもらってもいいんです。そのカテゴリだけで子どもたちの成長や活躍は終わるわけじゃないということをみんなで理解していきたいものです。

田中 指導者で高校の指導者と話すと「こういう選手が欲しい」という声を聞きます。ならば、カテゴリを超えた指導者の連携が必要ですね。

荒川 これらの夢を叶えるためにも、自由にボールを蹴ることのできる環境が必要です。そういう拠点ができれば、市民の皆さんが集まり、競技人口は増えるものです。まだ50年。さあ、これからですので、よろしくお願いします。今日はありがとうございました。



戸田市サッカー協会 設立50周年にあたり

戸田市サッカー協会

審判部長 服部 旭

戸田市サッカー協会が創立50周年を迎えることができました。

この半世紀にもわたり本協会が継続・発展することができたのも、ひとえに諸先輩方のサッカーに対する熱意、戸田市のサッカー競技の発展、並びに環境整備に対する絶え間ないご尽力の賜物と改めて敬意を表すると共に、感謝を申し上げます。

本協会審判部もサッカー協会とともに歴史を歩んで参りました。

「良い選手の育成には、良い審判員が不可欠」という観点より審判部では他の市町村に先駆け、審判員の育成・強化をすべく組織化を早い段階より推し進めて参りました。

私が審判を始めて間もない頃、市外に審判に行くと周りからの見る目が違い、「戸田の審判員はレベルが高い」と評されるほどでした。当時はそんな評価をプレッシャーに感じつつも、誇りに思えたことを思い出します。その甲斐あって、これまで女子1級審判員を筆頭に高いレベルの2級審判員を数多く輩出することが出来ました。その中には1級審判受験にチャレンジした審判員もあり、各カテゴリーに多くの審判員を輩出しております。

また、近年では新しい人材の発掘を目指し、少年サッカー連盟の協力の下、講習会の実施並びに3級審判昇級を目指すチャレンジャーの発掘、指導に注力しております。更には、近隣の市町村FAと相互に審判員を派遣し、交流と技術向上を目的とする事業も立ち上げました。

世界でも高く評価をされる審判員がフォーカスされ、一昔とは審判に対する見方も変化してきた昨今、若い世代からトップレフリーを目指したいという学生も増えてきております。私たち審判部と致しましても出来るだけ早い時期に戸田市から1級審判員の輩出を目標に日々努力をしていくと同時に、前述の「戸田市の審判員はレベルが高い」と評されるまで努力を積み重ねてきた諸先輩方の名にきずを付けぬよう情熱をもって戸田市のサッカーの発展に寄与して参る所存でございます。

今後、次の100年に向けて更なる発展と次世代への継承を進め、戸田市サッカー協会が益々飛躍する事を祈念しご挨拶とさせていただきます。



50年のあゆみ

- 昭和 9年 高橋直氏によって戸田中学校にサッカーが導入される。
その後、藤井均氏、菅野一郎氏と受け継がれ、戸田中
学校は戸田市サッカーの基盤を築く。
- 昭和42年 戸田中学校OBの植野幸治氏が中心となり、戸田市蹴
球協会が創立
- 昭和42年 第1回役員会にて、初代会長に石井巳佐雄氏、理事長
に菅野一郎氏が就任
- 昭和42年 第1回戸田市サッカー選手権大会（一般・中学生の部）
を開催



- 昭和44年 第1回会長杯争奪市民サッカー大会
- 昭和46年 西部土地区画整理地内にサッカー専用グラウンドとし
て惣右衛門公園サッカー場が完成
- 昭和47年 会長杯争奪市民サッカー大会をリーグ戦とし、名称を
戸田サッカーリーグに改称。第1回戸田サッカーリー
グ（1部・2部）を開催
- 昭和48年 惣右衛門公園サッカー場が全面芝生のグラウンドとし
て開設
- 昭和49年 蹴球協会及び有志、惣右衛門公園サッカー場に少年用
ゴール一式寄贈
- 昭和51年 日本サッカー協会及び埼玉県サッカー協会の改称に合
わせて、戸田市サッカー協会と改称
- 昭和52年 惣右衛門公園サッカー場にネットフェンスを設置
- 昭和54年 惣右衛門公園サッカー場にナイター設備を設置
- 昭和54年 戸田市サッカー選手権大会を市民体育祭サッカー選手
権大会に改称
- 昭和54年 菅野一郎氏、関東四十雀連盟ブルガリア遠征に参加
- 昭和54年 戸田市サッカー協会に審判部が設置

- 昭和55年 惣右衛門公園サッカー場に管理棟（クラブハウス）を設置
- 昭和55年 少年団親善サッカー大会を開催
- 昭和55年 スポーツ少年団大会を開催
- 昭和56年 4級審判資格認定講習会を開催
- 昭和56年 惣右衛門公園サッカー場にスプリンクラーを設置
- 昭和58年 3・4級審判資格認定試験を実施
- 昭和59年 国際親善サロフットボールフェスティバル開催
- 昭和61年 戸田市サッカー協会創立20周年記念事業として、アシックス少年サッカー選手・指導者技術講習会を開催
- 昭和62年 戸田市少年サッカー連盟発足
- 昭和62年 戸田市サッカー協会創立20周年記念事業として、市民体育祭サッカー選手権大会（優勝旗争奪）を開催
- 昭和63年 少年サッカー連盟主催で釜本邦茂サッカー教室を開催



平成元年 戸田市商工会主催スプリングカップ始まる。

平成 4年 少年サッカー連盟代表選手団が中国・開封市へ遠征





- 平成 7年 荒川クリエーション少年少女サッカー大会（荒川下流域市区選抜チーム）始まる。
- 平成 7年 少年サッカー連盟代表選手団がオーストラリア・リバプール市へ遠征
- 平成 9年 彩湖・道満グリーンパーク内にサッカー場Bが開設
- 平成13年 姉妹都市美里町との交流事業「美里杯」（U-12）に参加
- 平成14年 戸田市スポーツセンターにてジュニアグリーンカップ及びちびっ子カップ始まる。
- 平成15年 荒川第1調節池完成記念彩湖カップ少年サッカー大会始まる。
- 平成16年 姉妹都市美里町との交流事業「美里ジュニアカップ杯」（U-10）に参加
- 平成18年 第1回タウンミーティング開催
- 平成19年 ドテレンジャーカップ始まる。（現ちびっ子カップ秋期大会）
- 平成22年 元戸田市サッカー協会理事・高橋明氏、日本サッカー協会（JFA）理事に就任
- 平成22年 第2回タウンミーティング開催
- 平成22年 惣右衛門公園サッカー場が市内初となる全面人工芝のグラウンドになる。
- 平成22年 戸田市（戸田南FC）出身選手として、初のJリーガーとなる宇賀神友弥選手が浦和レッドダイヤモンズに加入
- 平成22年 荒川水循環センター上部公園が開園（U-10世代以下の活動場所として一部を利用）
- 平成23年 戸田南FC・戸木南ボンバーズFC出身の土光真代選手がU-16日本代表に選出され、AFC U-16女子選手権（中国）に出場。日本の優勝に貢献した。
- 平成24年 第3回タウンミーティング開催
- 平成24年 戸田南FC・戸木南ボンバーズFC出身の長谷川唯選手が飛び級でU-17日本代表に選出され、2012 FIFA U-17女子ワールドカップ（アゼルバイジャン大会）に出場
- 平成24年 土光真代選手が飛び級でU-20日本女子代表に選出され、2012 FIFA U-20女子ワールドカップに出場。銅メダル獲得に貢献
- 平成26年 長谷川唯選手がU-17日本代表に選出され、2014 U-17女子ワールドカップ（コスタリカ大会）に出場し、U-17日本代表の優勝に貢献
なお、長谷川唯選手はシルバーボール賞を受賞

- 平成26年 長谷川唯選手が飛び級でU-20日本代表に選出され、2016 FIFA U-20 女子ワールドカップ（パプアニューギニア大会）に出場し、銅メダル獲得に貢献
- 平成28年 第1回戸田市宇賀神サッカー教室を惣右衛門公園サッカー場で開催



- 平成29年 長谷川唯選手がなでしこジャパンに初選出され、アルガルヴェ・カップ2017に出場。この大会で2得点を挙げる活躍を見せる。
- 平成29年 少年サッカー連盟主催の戸田ガールズひろばを開催
- 平成29年 宇賀神友弥選手が2018 FIFAワールドカップ・アジア最終予選を戦う日本代表に初選出

***戸田市サッカー協会**

初代会長	石井 巳佐雄
2代目会長	田村 良一
3代目会長	召田 均
4代目会長	篠 正弘
5代目会長	峯岸 光夫
6代目会長	熊木 照明

***少年サッカー連盟**

初代会長	金子 利四郎
2代目会長	佐藤 征二
3代目会長	伊野 広明
4代目会長	石田 進逸

今後の戸田市サッカー協会について

戸田市サッカー協会

理事長 伊藤 章

50周年を迎えた戸田市サッカー協会。創立からここまで関わって頂いた諸先輩方に改めて感謝いたします。

私自身、美笹中でサッカーを始め、社会人チーム、少年団等、戸田市のサッカーに携わって30年以上になります。私が学生の頃は日本にプロサッカーが出来るなどとは、夢にも思いませんでしたが、この間にサッカーを取り巻く環境は激変しました。

メキシコオリンピック銅メダルが語り草となっていた時代から、プロリーグ（Ｊリーグ）が出来、夢のまた夢だったワールドカップにも連続出場するなど、今の若者が羨ましい限りです。

そして、戸田市出身のＪリーガーやなでしこリーガーが活躍し、市内の少年・少女達に身近な目標が出来ました。

戸田市サッカー協会は、オリンピックやワールドカップ出場を夢見て頑張る子ども達から道満サッカー場で切磋琢磨する社会人リーグの選手など、各種別（年代別）での環境を整え、益々発展していく為に、我々役員一同、より一層努力していく所存です。

最後になりますが、現在に至るまで戸田市のサッカーに多大なるご尽力をいただきました篠正弘氏が平成25年9月24日にご逝去されました。篠正弘氏の功績を改めて称え、感謝の気持ちとともに、謹んで哀悼の意を表します。



H29 少年連盟主催戸田ガールズ広場の様子



* 編集後記

戸田市サッカー協会創立50周年記念誌発行にあたり、御多用の中ご寄稿いただきました皆様には、事務局一同心より感謝申し上げます。

この度は、本協会の貢献者である方々の対談や、現代サッカーの最前線を駆け抜ける現役選手へのインタビュー等をとおして、戸田市サッカーの50年間の歴史や取り組みについて改めて実感することができました。この50周年の節目に、記念誌として皆様のご記憶にとどめていただけたらと思います。

これから先も、益々戸田市のサッカーが発展し、さらなる歴史を築きあげていくために、事務局一同これからも努力を続けていく所存であります。

編集 戸田市サッカー協会創立50周年記念 記念誌部会

発行 戸田市サッカー協会
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1丁目18番1号
TEL 048-441-1800

発行日 平成29年10月1日

印刷・製本 (有)宮園印刷
